

## 黒木龍三教授の略歴および業績

1953年5月21日生

### 学歴，職歴等

#### 学歴

- 1972年3月 愛知県立時習館高等学校卒業
- 1972年4月 早稲田大学政治経済学部経済学科入学
- 1976年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
- 1977年4月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1979年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程終了（経済学修士）
- 1979年4月 早稲田大学大学院経済学研究科研究生（1981年3月まで）
- 1981年4月 京都大学大学院経済学研究科博士課程入学
- 1984年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
- 1984年4月 日本学術振興会奨励研究員（1985年3月まで）

#### 学位

- 1976年3月 経済学学士（早稲田大学）
- 1979年3月 経済学修士（早稲田大学）

#### 職歴

- 1976年4月 財団法人 電力中央研究所経済研究所研究員（1977年9月まで）
- 1985年4月 大阪産業大学専任講師，助教授（1994年3月まで）
- 1994年4月 茨城大学人文学部社会科学科助教授（1996年3月まで）
- 1996年4月 立教大学経済学部経済学科助教授（1998年3月まで）
- 1998年4月 立教大学経済学部経済学科教授（2002年3月まで）
- 2002年4月 立教大学経済学部会計ファイナンス学科教授（2019年3月まで）
- 2002年4月 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授（2019年3月まで）  
（海外での教育研究歴）
- 1990年8月 アメリカ，New School for Social Research 特別研究員1年間
- 2004年4月 イタリア，ミラノカトリック大学特別研究員1年間

## 学会活動

日本経済学会, 日本経済学史学会, 日本ケインズ学会 (幹事)

## 業績一覧

## 1. 学術論文

## A. 外国語 (一部を抜粋)

- (1) “The Equalization of the Rate of Profit Reconsidered,” in *Competition, Instability, and Nonlinear Cycles* (ed. by W. Semmler) 1986, Springer Verlag.
- (2) “Growth and Debt Accumulation,” in *Dynamical Systems and Chaos*, vol. 1 (ed. by N. Aoki, K. Shirakawa and Y. Takahashi) 1995, World Scientific.
- (3) “Balance Sheet Business Cycles,” in *Keynes and Modern Economics* (ed. by R. Kuroki) 2013, Routledge.
- (4) “Izumi Hishiyama and His Thoughts on the Circular Flow Process and the Prices of Production,” 『経済学史研究』第56号, 2015年, 日本経済学史学会.
- (5) “Turgot: a Successor to Quesnay and a Forerunner of Smith,” in *The Foundations of Political Economy and Social Reform* (ed. by R. Kuroki and Y. Ando) 2018, Routledge.

## B. 邦語 (一部を抜粋)

- (6) 「各国のエネルギー政策」, 1977年, 電力中央研究所.
- (7) 「再生産と利潤率」, 『経済論叢』第131巻第6号, 1983年, 京都大学経済学会.
- (8) 「L. パシネッティ教授をむかえて」, 『経済論叢』第134巻第5・6号, 1985年, 京都大学経済学会.
- (9) 「ケインズ学説における資産選択と有効需要」, 『大阪産業大学論集社会科学編』第70号, 1988年.
- (10) 「『一般理論』における因果律 内生的貨幣供給を含むケインズモデル」, 『金融学会報告』69号, 1990年.
- (11) 「貨幣の生産経済について」, 『大阪産業大学論集社会科学編』第82号, 1991年.
- (12) 「『負債』の経済学」, 『大阪産業大学論集社会科学編』第86号, 1991年.
- (13) 「『負債』の理論」, 『経済動態と市場理論的基礎』1992年, 日本経済評論社.
- (14) 「『市場価格』と『自然価格』 いわゆる gravitation について」, 『経済学の諸問題: 理論・分析と思想 伊達邦春教授古稀記念論文集』1992年, 八千代出版.

- (15) 「負債の累積と金融的景気循環」, 『金融構造研究』第15号, 1993年.
- (16) 「第二公準否認と内生的貨幣供給」, 『大阪産業大学論集社会科学編』第90号, 1993年.
- (17) 「金融的景気循環」, 青木達彦編 『金融脆弱性と不安定性』1995年, 日本経済評論社.
- (18) 「政治経済学の誕生 重農主義と古典派経済学」, 伊達邦春編 『現代政治経済学テキスト』1997年, 中央経済社.
- (19) 「「短期」の貨幣と「長期」の貨幣」, 『金融構造研究』第20号, 1998年, 地方銀行協会.
- (20) 「信用貨幣経済の一般理論序説」, 『大阪産業大学論集社会科学編記念号』1999年.
- (21) 「ケインズ経済学の現代的評価」, 『経済学史研究』第37号, 1999年, 日本経済学史学会.
- (22) 「利率体系と活動水準」, 『立教経済学研究』第53巻第4号, 2000年.
- (23) 「合成の誤謬」, 『立教経済学研究』第54巻第3号, 2001年.
- (24) 「ケネー「経済表」と現代経済学」, 『立教経済学研究』第59巻第4号, 2006年.
- (25) 「再生産と剰余の経済学 カンティロンとケネー」, 西川潤・他編 『社会科学を再構築する』2007年, 明石書店.
- (26) 「貨幣とバランスシート景気循環」 『立教経済学研究』第62巻第2号, 2008年.
- (27) 「金融危機とミンスキーサイクル」, 渡辺和則編 『金融と所得分配』2011年, 日本経済評論社.
- (28) 「ミンスキー・モーメント」, 原正彦編 『グローバル・クライシス』2012年, 青山社.
- (29) 「価値と価格: 地代論を中心に」 『立教経済学研究』第68巻第4号, 2015年.
- (30) 「景気変動の理論」, 金子邦彦編 『エレメンタル現代経済学』2016年, 晃洋書房.
- (31) 『観光経済学の基礎講義』共著, 2017年, 九州大学出版会.
- (32) 「チュルゴの資本理論: 差額地代と土地価格との関係で」 『立教経済学研究』第71巻第3号, 2018年.
- (33) 「チュルゴの「価値と貨幣」」 『経済論叢』第193巻第1号, 2019年, 京都大学経済学会.

## 2. その他 (一部を抜粋)

- (34) 「やさしい経済学 金融不況の読み方」 『日本経済新聞』1998年11月30日 12月11日10回連載.
- (35) 「資本主義の起源 経済理論と歴史認識」 『立教経済学論叢』第86号, 2019年.

## 3. 翻訳 (一部を抜粋)

- (36) 「実物的経済分析と貨幣的経済分析: 核心的議論」 共訳著, 貨幣的経済理論研究会 『貨幣・利子および資本』2004年, 日本経済評論社. (原著: Colin Rogers (1989) *Money, Interest and Capital*, Cambridge University Press)

- (37) 『ケインズ全集 第21巻: 世界恐慌と英米における諸政策 1931~39年の諸活動』共訳著, 2015年, 東洋経済新報社. (原著: John Maynard Keynes (1982) *Activities 1931 1939: world crises and policies in Britain and America* (ed. by Donald Moggridge, The collected writings of John Maynard Keynes, v. 21), Macmillan)
- (38) 「序論」「ケンブリッジ大学でのピエロ・スラッファ」共訳著, 平井俊顕監訳 『市場の失敗との闘い』2015年, 日本経済評論社. (原著: Maria Cristina Marcuzzo (2012) *Fighting Market Failure: Collected Essays in the Cambridge Tradition of Economics*, Routledge)
- (39) 「リチャード・マーフィー・グッドウィン (1913 1996)」 「新古典派経済学を超えて」共訳著, 渡会勝義監訳 『ケインズとケンブリッジのケインジアン』2017年, 日本経済評論社. (原著: Luigi L. Pasinetti (2009) *Keynes and the Cambridge Keynesians: A 'Revolution in Economics' to Be Accomplished*, Cambridge University Press)